

東京23区が
見える。わかる。

2019 SUMMER

Vol.37

ワンツースリー One23

公益財団法人特別区協議会 特別区自治情報・交流センター発行の東京23区情報誌

特集

各区の歴史や 文化を知ろう!

■各区の歴史や文化を知ろう!

- 足立区…郷土博物館
- 荒川区…荒川ふるさと文化館
- 板橋区…郷土資料館
- 江戸川区…郷土資料室
- 大田区…郷土博物館
- 葛飾区…郷土と天文の博物館

■クマなくさんぽ

…新庁舎オープン! 渋谷区役所

■所蔵資料蔵出し

…「婦人画報増刊 東京遊覧画報」

渋谷区役所

もっと活用しよう!

特別区自治情報

こんなことしたよ

令和元年度特別区全国連携プロジェクト 第1回全国連携展示(群馬県市町村)「ぐんま 鉄たび 湯たび 歩きたび」

特別区長会と連携協力協定を締結した群馬県市長会、群馬県町村会との連携事業として、群馬県市町村の紹介展示を令和元年5月14日(火)から6月20日(木)にわたり、東京区政会館1階にて開催しました。

今回の展示では、鉄道旅、温泉や観光スポット、ハイキングやグリーンツーリズムなど、都心にはない群馬の様々な魅力を紹介したパネル等を展示したほか、群馬県市町村のパンフレットの提供、自治体PR動画を上映しました。

展示物を見た来場者からは、「東京から近いので気軽に行ける。」「群馬の鉄道に乗ってみたい。」等の感想をいただきました。

また、展示期間中の関連イベントとして、令和元年5月29日(水)、30日(木)の2日間にわたり、群馬の5自治体の特産品を販売し、多くの方で賑わいました。

群馬県市町村の素晴らしさや魅力を発見し、交流を深めていただくきっかけとなる展示となりました。



展示の様子



関連イベント(特産品販売)の様子

こんなことやるよ



港区観光プロモーション展示～とっておきの1日を港区で～



東京タワー

東京区政会館1階エントランスホールにおいて、港区観光プロモーション展示～とっておきの1日を港区で～を開催します。

港区には、台場、青山、六本木、汐留、麻布十番といった人気のスポットがあり、三田、赤坂、高輪、新橋、芝浦など個性豊かな街並みが眩い魅力を放っています。

今回の展示では、港区内各地域の魅力を知っていただけるような「港区観光フォトコンテスト2018」入賞作品の展示をはじめ、「港区ワールドプロモーション映像」の放映、「MINATOシティプロモーションクルー認定事業」に認定された、企業等による区の魅力発信の取組紹介を行います。

また、VRで港区内の観光を体験することができる「VR体験会」、各ブースにあるスタンプを集めると記念品がもらえる「スタンプラリー」も期間限定で開催するほか、区内の観光スポット等を紹介する人気の「港区観光マップ」「るるぶ港区」等の観光冊子の配布も行います。

今回の展示を機に、ぜひ港区の魅力を感じてください。

開催日:令和元年7月9日(火)～8月22日(木)(日曜・祝日を除く)

展示時間:平日 午前9時～午後8時30分/土曜日 午前9時～午後5時

会場:東京区政会館1階エントランスホール(千代田区飯田橋3-5-1)

※VR体験会及びスタンプラリーは以下の日時で開催します。

- 7月17日(水)午前9時～午後5時15分
- 7月24日(水)午前9時～午後5時15分
- 7月31日(水)午前9時～午後5時15分
- 8月7日(水)午前9時～午後5時15分
- 8月21日(水)午前9時～午後5時15分

※スタンプラリーの記念品はなくなり次第終了とさせていただきます。



VRイメージ映像

展示
スケジュール

共催:公益財団法人特別区協議会、港区

交流センター

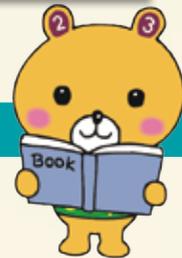
特別区自治情報・交流センターとは？

23区(特別区)と地方自治の専門図書館として約9万6千冊の資料を所蔵しています。特別区や地方自治について知りたい、調べたいときなどにご利用ください。

所蔵資料
蔵出し

おすすめのほんだよ

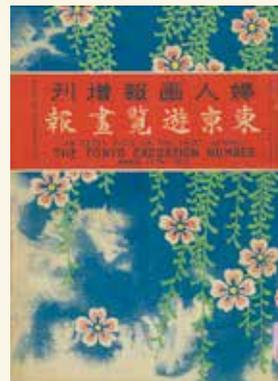
特別区に関する資料から読み解いてみよう!



▶▶ 「婦人画報増刊 東京遊覧画報」

明治43(1910)年4月15日発行

明治43(1910)年に発行された本書は、レトロなモノクロ写真を多数交えながら、東京市15区(麹町区、神田区、日本橋区、京橋区、芝区、麻布区、赤坂区、四谷区、牛込区、小石川区、本郷区、下谷区、浅草区、本所区、深川区)にあるさまざまな名所の遊覧案内をしています。これらの名所の中には、今でも親しまれている名勝や有名な建物が数々あげられています。今回は、本書を通じて、明治時代の東京のまちを探索してみましょう。



日本橋区“三越呉服店”



三越呉服店

日本橋区は、「何をいふても此の區は商業中心」であり、問屋の多くが集中する商いのまちでした。「總て日本の産物は一度、此の區に入つてそれから東京市中は固より諸國へも散らば」ることから、日本の物流の一大拠点となっていたことがうかがえます。また、三越、白木屋、大丸の三呉服店のような問屋に勝るとも劣らない小売店のほか、日本銀行や株式取引所などもあり、日本の経済の中心となっていました。

※日本橋区は、京橋区と昭和22(1947)年に統合し現在の中央区になります。

深川区“木場の材木問屋”

深川区は、「此の區ほど市内で橋梁の多いところはありません」と紹介されるほど、溝渠や運河が縦横無尽に走っています。こうした水の利を活かして、木場付近には多くの材木問屋が集っていました。また、東京の人々のお米は、「深川の佐賀町にある廻米問屋の倉に、一旦地方から集まり」、食卓へ届けられていました。深川区は、「家屋の材木は木場から、お米は佐賀町から」、いわば「衣食住のうち食住の2つ」を支えるまちであったことがうかがえます。

※深川区は、城東区と昭和22(1947)年に統合し現在の江東区になります。



木場の材木問屋

下谷区“上野公園”



上野公園

下谷区は、「此の區で最も御紹介せねばならぬのは上野公園及びそれを中心としたる附近の箇所でありませう。」と称されていました。現在でも桜で有名な上野公園ですが、明治43(1910)年でも東京市内第一の広さを誇り、春になると桜花爛漫な園内を多くの人たちが訪れる観光名所でした。

※下谷区は、浅草区と昭和22(1947)年統合し現在の台東区になります。

かつての東京のまちを思い浮かべることができましたか?これらの古い資料は、特別区自治情報・交流センターで実際に手にとって閲覧いただけます。興味のある方は、お気軽にカウンターまでお声かけください。

普段とは違う視点から見た23区、
知ればもっと面白い!

コマなく さんぽ



渋谷区

災害に強く、より便利で、 ひとと環境に優しい区役所に 「渋谷区役所新庁舎」

耐震強化を大きな目的として、渋谷区役所の庁舎が建替えられました。災害に強いのはもちろんのこと、安心して相談できる福祉の窓口や、さまざまな手続きが同じフロアで完了する申請・届出窓口など、サービスを一新して、より便利で優しい区役所として生まれ変わりました。

“万が一の災害”に 強い庁舎へ

東京オリンピックが開催された1964年に建設された渋谷区役所の庁舎は、2011年の東日本大震災を機に耐震診断を実施し、震災時の活動拠点として必要な耐震性能を満たしていないということがわかりました。そこで、対策を検討し、災害に強い新庁舎の建替えを決めました。建替え事業の方式は、区庁舎の敷地の一部に定期借地権を設定することで、区の庁舎建設費の負担をゼロにするというものでした。新庁舎は、危機管理システムを一新し、耐震安全性:I類の免震構造を採用するなど、万全の危機管理体制を整えています。

便利で利用しやすい サービス

区民のみなさんが、区役所で最も利用するサービスは、転入・転出や住民票、国民健康保険や国民年金の手続きといった、申請・届出関連の窓口ではないでしょうか?新庁舎の3階にはこうした申請・届出関連の窓口が揃っています。引越しなどで複数の手続きが必要な場合も、同じフロアで手続きが完了します。また、申請書の自動記載システムにより手書きの項目を減らすなど、利用者の手間を減らして利用時間の短縮を目指しています。

“ひとと環境への優しさ”を 追求

2階には、福祉に関する手続きや相談の窓口を設けています。相談や手続きが複数に及ぶ場合も、各担当職員が入れ替わって対応するので、利用者は窓口を移動せずに席に座ったままで相談や手続きを終えることができます。多数設置されている個別のブースや相談室は、声漏れや周囲からの視線が気にならないように仕切られているので、プライバシーへの配慮も万全です。

新庁舎は環境性能も高く、自然の力とテクノロジーを駆使して、環境負荷の削減と省エネルギーを実現しています。太陽光発電や、ガスから電気と熱を生成するコージェネレーションシステムを採用することで、災害時の非常用電源も確保します。



(写真上)3階：暮らしの手続きフロア(下左)2階：福祉手続き・相談窓口
(下右)屋上に設置された太陽光パネル

ココも注目

●ユニバーサルデザイン

視覚障害の有無にかかわらず読める「点字サイン」や、高齢者や車椅子の方、子ども連れの方など、さまざまな人が利用しやすい「だれでもトイレ」の全フロア設置などにより、安全安心な施設を実現しています。



●開かれた議会

区議会議場は、吹き抜けで上階の傍聴席につながっています。ガラスで仕切られた防音型の親子傍聴席もあり、いつでも誰でも傍聴できる、区民に身近な議会を目指しています。



渋谷区役所新庁舎

所在地 渋谷区宇田川町1-1
開庁時間 8:30~17:00
(土曜日・日曜日、祝・休日および12/29~1/3を除く)
アクセス 渋谷駅より徒歩11分
お問い合わせ 03-3463-1211

特集

各区の歴史や文化を知ろう!



23区には魅力あふれる歴史と文化が盛りだくさん。今回は足立区・荒川区・板橋区・江戸川区・大田区・葛飾区の計6区を特集するよ。

足立区



ココが見どころ
木造平屋建ての都営住宅の再現

戦後区内に数多く建設された都営住宅を、原寸で展示。時代は昭和30年代、子どもが二人いる4人家族の夏の風景をリアルに再現した展示に、「懐かしい!」「これは何?」と、親子二代三代の会話がはずみます。

夏休み学習展「巨匠の日本画」 7/24(水)～9/1(日)
横山大観や平山郁夫といった、明治から平成を彩った巨匠たちの作品を通じて、近現代絵画の魅力とその楽しみ方を紹介する展覧会。

江戸東京の東郊・足立区の歴史を今につなげる

江戸と東京の「東郊(東側の近郊)」としての発展が現在の足立区を形作ったという視点から、足立区のあゆみを江戸時代から昭和時代に焦点をあてて紹介しています。農村、工業地域、住宅地と変貌を遂げた歴史に、見て触れて学べる博物館です。公式サイトでは、画像を自由にダウンロードして使用できる「郷土博物館資料オープンデータ」を公開しています。



足立区立郷土博物館

所在地 足立区大谷五丁目20番1号
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始、その他臨時休館あり
入館料 高校生以上200円、中学生以下・70歳以上・障がい者手帳をお持ちの方およびその介護者1名は無料
アクセス JR亀有駅よりバス
JR電有駅よりバス
JR常磐線南千住駅より徒歩1分
お問合わせ 03-3620-9393



あらかわの歴史と文化をぐるっとひと回り

区内で発掘された遺跡、中世の板碑、近世の町や農村の暮らし、木橋時代の千住大橋や銭座の作業風景などを常設展示し、荒川区の歩みをたどります。併設している「あらかわ伝統工芸ギャラリー」では、荒川区が誇る伝統工芸技術の実演や体験を毎月開催しています。8月には常設展示に「奥の細道コーナー」を新設し、奥の細道矢立初めの地・あらかわをさらにアピールしていきます。



荒川ふるさと文化館

所在地 荒川区南千住六丁目63番1号
開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、毎月第2木曜、年末年始
入館料 100円
※荒川区民で中学生以下・65歳以上・障害者およびその介護者は無料
※あらかわ伝統工芸ギャラリーは無料
アクセス JR常磐線南千住駅より徒歩10分
お問合わせ 03-3807-9234



荒川区



ココが見どころ
昭和41年頃の下町の風景を原寸大で再現

あらかわの近現代コーナーには、高度経済成長期の、昭和41年のあらかわの路地の風景が。復元された三軒長屋やニコイチ長屋の中に、当時使用されていた黒電話やちゃが台といった生活用品が並び、忠実に再現された街並みには懐かしいテレビやラジオ放送、子供たちの声が行き交うなど、昭和のノスタルジーが漂う。

夏休みのイベント 7月下旬～8月下旬
学芸員の仕事や職人さんの弟子入りを体験できる「リトル学芸員」や「職人道場」、「勾玉づくり」や「子ども俳句教室」など、夏休みは子ども向けイベントを多数開催。

板橋区



ココが見どころ

江戸時代後期の古民家を移築・保存

江戸時代後期頃の農家の暮らしを知ることができる「旧田中家住宅」は、茅葺屋根に2つの座敷と勝手、納戸からなる典型的な農家の特徴を持っている。ほかに、明治後期に建てられ板橋町最大規模と言われた貸座敷「新藤楼」の門も移築・保存されている。



板橋区立郷土資料館

所在地 板橋区赤塚5丁目35番25号
開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始、その他臨時休館あり
入館料 無料
アクセス 都営三田線西高島駅より徒歩13分
お問合わせ 03-5998-0081



来年1月、常設展をリニューアルし再オープン

「生きる・暮らす・戦う」の各テーマごとに、板橋区の歴史を紹介しています。前身の郷土資料室のオープンから50年となる今年、リニューアルオープンを予定。模型と映像を用いた、古代・江戸・第二次世界大戦時の3つの村の展示を観ることができ、改装前の9月1日までです。リニューアル前と後の展示を見比べてみるのも面白いかもしれません。 ※9月2日(月)～1月17日(金)まで、リニューアルのため、休館します。

企画展「郷土資料館、50年の展示～後編」 7/13(土)～9/1(日)
オープンから50年の間に開催してきた170の企画・特別展を振り返り、郷土板橋の歴史を再発見。見逃したあの展示も。

江戸川区の歴史を大人も子どもも楽しく学べる

江戸川区郷土資料室は昭和40年に開室し、区の歴史や文化を50年以上にわたり伝え続けてきました。「江戸川区のあゆみ」「くらしとわざ」「川と海と江戸川区」の3つのテーマを設け、実物資料と解説により郷土史を紹介しています。子どもたちにも理解しやすい展示を心がけ、パネルの色や文字の大きさなどにさまざまな工夫が施されています。



ココが見どころ

海苔の養殖で活躍したべか舟と養殖用具

海苔の養殖が盛んだった明治時代に大活躍していた「べか舟」と養殖用具。一人乗りののり採り用舟「べか舟」と、江戸川区の有形民俗文化財に指定されている「海苔養殖用具」に、江戸川区と水辺との関わりを見ることが出来る。

企画展「江戸川区と替女」 8/10(土)～11/24(日)
江戸川区の史跡「一之江名主屋敷」では、替女(盲目の旅芸人)唄ライブが毎年、秋に開催される。その替女をテーマとした企画展。

所在地 江戸川区松島1丁目38番1号グリーンパレス3階
開館時間 9:00～17:00
休館日 祝日及び振替休日・国民の祝日、年末年始、グリーンパレス休館日
入館料 無料
アクセス JR新小岩駅よりバス
「江戸川区役所前」下車徒歩2分
お問合わせ 03-5662-7176



大田区



ココが見どころ

勝海舟ゆかりの街?文士の街?大田区の歴史がココに

大田区の歴史、文化、産業などを中心に、各テーマに沿った関連施設や散策コースなどもあわせて紹介しています。遺跡の豊富な街、モノ作りの盛んな街、勝海舟ゆかりの街、文士・芸術家の街といった大田区の特徴を、豊富な資料によって知ることができます。区内に今夏開館予定の「大田区立勝海舟記念館」の関連コーナーに並び、遺品や歴史資料も必見です。

特別展「頼の御嶽山と一山行者」 10/5(土)～12/1(日)
頼の御嶽山と呼ばれ、関東一円から参拝者を集めた「御嶽神社」の歴史的展開を中心に、神社に参集した「御嶽講」について考えます。

80名以上の文士が居住した「馬込文士村」

大正末から戦前にかけて、大田区馬込・山王周辺には多くの小説家や詩人、芸術家たちが居住し、「馬込文士村」と呼ばれていました。この文士村の中心人物である尾崎士郎、宇野千代、室生犀星、萩原朔太郎ら約20名の作品や遺品とともに、当時の馬込・山王での生活を紹介します。



大田区立郷土博物館

所在地 大田区南馬込5丁目11番13号
開館時間 9:00～17:00
休館日 月曜日(祝日は開館)、年末年始、その他臨時休館あり
入館料 無料
アクセス 都営浅草線西馬込駅より徒歩7分
お問合わせ 03-3777-1070



「郷土史」と「天文」の両方を楽しめる博物館

「郷土史」のフロアでは、「水」「あゆみ」「くらし」の3つのテーマに沿って、葛飾の歴史と文化を紹介しています。「天文」のフロアには、昨年リニューアルしたプラネタリウムがあり、最先端のシステムを駆使したオリジナルの番組を毎日上映しています。郷土史フロアの一部は10月から改修し、来年6月にリニューアルオープン予定です。 ※改修期間中は、郷土史フロアは見学できません。



葛飾区郷土と天文の博物館

所在地 葛飾区白鳥3丁目25番1号
開館時間 9:00～17:00(金土～21:00(祝日は17:00))
(入館は閉館30分前まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は開館)、第2・4火曜日(祝日の場合は開館直後の平日休館)、12/28～1/1、1/4
入館料 大人100円、小中学生50円、幼児無料
プラネタリウム/大人350円、小中学生100円、幼児50円
※土曜は中学生以下無料、障害者及びその介護者(2名までは無料)
アクセス 京成電鉄本線お花茶屋駅より徒歩8分
お問合わせ 03-3838-1101



葛飾区



ココが見どころ

昭和30年代の葛飾区の民家と工場

戦後の葛飾の花形産業のひとつであったボルト・ナット製造工場と昭和30年代の住宅を再現。屋内には、当時使用されていたテレビや冷蔵庫といった家電製品も並び。

特別展「オリンピック・パラリンピックと葛飾」 7/20(土)～9/1(日)
昭和39年の「東京オリンピック」で葛飾区内を通過した聖火ランナーの資料や当時の区の様子等を展示します。

特別区自治情報・交流センターからのご案内

特別区自治情報・交流センターでは、様々な講座や企画を開催しています。ぜひご参加ください。
※講座や企画の詳細は(公財)特別区協議会ホームページ(HP)をご覧ください。

東京区政会館1階展示スペース

東京区政会館1階エントランスホールで各種展示を行っています。

どなたでも自由にご覧いただけます。

開催時間 平日|9:00～20:30 土曜日|9:00～17:00 日曜日・祝日|休館

(公財)特別区協議会HP <http://www.tokyo-23city.or.jp/>

港区観光プロモーション展示

～とっておきの1日を港区で～

主催 港区

(公財)特別区協議会

展示期間 令和元年7月9日(火)～8月22日(木)

大田区立勝海舟記念館オープン記念展示

～大田区・墨田区・港区合同企画～

主催 大田区

(公財)特別区協議会

展示期間 令和元年8月27日(火)～9月26日(木)



新刊発行の
お知らせ

東京大都市地域の物語3 「東京23区 再生のいしずえ」の発行

東京23区の自治のあゆみを時代を追いながらたどる「東京大都市地域の物語」シリーズ。本シリーズの1冊目「東京23区のならたち」、2冊目「東京23区 自治へのたたかい」に続き、このたび3冊目となる「東京23区 再生のいしずえ」を発行しました。

昭和27年、区側の必死の抵抗の甲斐なく、区長公選制の廃止

など大幅に自治権が後退したところから、「東京23区 再生のいしずえ」の物語は始まります。都の内部的な団体とされた特別区は、東京大都市地域への人口・産業が集中していく時代を背景に、自らの自治権を回復させるための理論を構築し、運動を展開していきます。そのさなか、特別区の憲法上の性格が争われた法廷論争も巻き起こり、この運動を更に後押ししました。

運動の結果、特別区は、昭和39年に復権運動の第一歩となる大幅な事務権能の拡大を実現しました。本書はまさに特別区の基礎的な自治体への復権につながる「再生のいしずえ」となる物語です。そして、特別区の悲願である区長公選制の復活を実現するため、自治権拡充運動を展開していく物語は、今後発行予定の4冊目に続きます。

「東京23区 再生のいしずえ」は、特別区自治情報・交流センターで無料配布しているほか、特別区協議会ホームページでも全文をご覧いただけます。ぜひご利用ください。

HP▶<https://www.tokyo-23city.or.jp/chosa/tokei/shodana/monogatari.html>
平成31年3月発行(無料)

編集後記

新しい時代を迎え初めての号となります。

今号から「各区の歴史や文化を知ろう!」をテーマに歴史や文化を展示紹介している各区の施設を、区名のあいうえお順に1号につき6区(施設)、1年で23区(施設)を紹介していきます。貴重な資料や展示を見るときっと新しい発見があると思います。(K、K&H)



特別区自治情報・交流センター

千代田区飯田橋3-5-1 東京区政会館

開館時間:(4階)9:30～20:30

(土曜日は9:30～17:00)

休館日:日曜日、祝日、年末年始等

One23に掲載されている各種資料等の情報はコチラ

<http://www.research.tokyo-23city.or.jp/>



東京メトロ 東西線 飯田橋駅 A5出口すぐ
東京メトロ 有楽町線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
東京メトロ 南北線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
都営地下鉄 大江戸線 飯田橋駅 A2出口徒歩2分
JR中央・総武線 飯田橋駅 東口徒歩5分